

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

平成30年度 第4回美里町生活支援体制整備協議会

2 開催日時 平成31年3月26日(火)午前10時から午前11時まで

3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 小会議室

4 会議に出席した者

(1) 委 員 小野俊次会長、佐藤美佳副会長、佐々木義夫委員、角田フミコ委員

(2) 事務局 美里町長寿支援課 相原浩子、横山太一
美里町社会福祉協議会 浅野恵美、永沼威雄、田村紗希、高橋ゆかり

(3) その他 仙台白百合女子大学准教授 志水 田鶴子 氏
宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局長 及川 一之 氏

5 議題及び会議の公開・非公開の別

議題

(1) 報告

第3次美里町地域福祉活動計画について
平成30年度生活支援体制整備事業について
・生活支援体制整備協議会の事業について
・生活支援コーディネーターの活動について

(2) 協議事項

平成31年度生活支援体制整備事業の活動方針について
平成30年度美里町生活支援体制整備協議会啓発事業
「地域の介護予防活動は地域づくりへの第一歩」の進め方について

会議の公開・非公開の別

公開

6 非公開の理由

7 傍聴人の人数

0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

<協議事項 >

平成31年度生活支援体制整備事業の活動方針について

平成30年度に実施した地域福祉力UP情報交換会や、ふくし総合相談事業「店舗サロン ヨークだっ茶」、児童による高齢者生活支援体験事業「暮らしのてっだい隊」等から、少子高齢化・社会的孤立・制度の狭間問題といった様々な課題が見え、住民の暮らしに影響をもたらしていることがわかった。また、町社協主催のサロンサポーター養成講座にて実施したアンケートから、すでに地域内では多くの支え合いが行われており、日常的な地域での関わりは支え合いの基盤であることから、支え合いによる生活支援の重要性が高まっていることを共通理解した。

平成31年度は、このような近隣同士の自然な支え合いの生活支援をテーマに介護予防・生活支援に資する担い手の養成や地域資源リスト(仮)の作成等を実施し、支え合いの地域づくりを推進していくこととした。

<協議事項 >

平成30年度美里町生活支援体制整備協議会啓発事業

「地域の介護予防活動は地域づくりへの第一歩」の進め方について

タイムスケジュールと各担当箇所の確認を行い、全体のリハーサルを実施した。

(2) 詳細な意見

高橋	本日は、お集まりいただきありがとうございます。本日は、仙台白百合女子大学の志水先生と宮城県地域支え合い生活支援推進連絡会の及川事務局長にも同席いただいております。開会の挨拶を小野会長さんお願い致します。
小野会長	おはようございます。第4回目の協議会ということで、次第にもありますように報告と協議事項があります。午後からは、啓発事業もあります。協議会は11時頃までの会議となっていますのでよろしくお願い致します。
高橋	ありがとうございます。本日のタイムスケジュールですが、これから11時まで協議会を行いまして、11時から12時まで多目的ホールで啓発事業のリハーサルを行いたいと思います。 次第2.署名委員の選出について、皆さんにお諮りします。
一同	事務局一任
高橋	(事務局一任で)よろしいでしょうか。
一同	拍手で承認
高橋	それでは、佐藤副会長と佐々木委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。
一同	拍手で承認
高橋	それでは、よろしく願いいたします。 続いて、次第3.報告に移ります。(1)第3次美里町地域福祉活動計画について、永沼より報告します。
永沼	別冊で地域福祉活動計画案の資料をご覧ください。約1年半かけて、住民の方々はじめ各団体や機関の方々の協力を得て1月31日に答申がされたものです。理事会は通りました。明日、評議員会がありまして、そこで通れば正式に4月から進めていくこととなります。報告する内容は、6ページの日常生活圏域の範囲の考え方と地域の支え合いの考え方というところです。この体制整備協議会の中でも以前、日常生活圏域について協議しました。日常生活圏域で地域の方々がどのようなカタチで支え合いや地域活動を行っているのかということ整理したのが7ページの図になります。改めて確認しますが、上の楕円形の丸が地域の範囲です。自分や家族等の範囲、身近な範囲、地縁組織の範囲、学区の範囲、町全体の範囲のように、地域の範囲の考え方を示しています。下の方の「自助・互助・共助・公助」は、地域の支え合いの考え方を示しています。自分や家族などの範囲が自助、地縁組織の範囲のところまでが互助です。共

	<p>助というのが町全体の範囲のところまで重なる部分もあり線引きが難しいのですが、介護保険事業や社会保険制度も共助の部分に入るということを、皆さんの意見をもとに整理しました。10ページ・11ページは、現在、美里町で起きている課題について、皆さんのご意見を基にして4つに分けました。(1)多重・複合問題と生活困窮(2)制度・サービスの狭間にある多様な問題(3)社会的孤立(4)多様な問題を受け止め支え合う仕組みと地域共生社会です。この4つの課題に対してどのように取り組んでいくかということを示す17ページで、基本目標と指針で示しています。</p> <p>基本目標で以前と変わったところは、基本目標3「みんなで作る福祉のまちづくり」というところです。指針は、現在の課題に対応するため全て作り直しています。18ページからはそれぞれの指針に対しての具体的取組を地域の範囲ごとに表しています。「私たち一人ひとりの範囲」、「隣近所・行政区・自治会・町内会などの範囲」、「小学校区域や地区社協などの範囲」、「町域の団体や事業所、町社協の範囲のように4つの大きな範囲」に分け、それぞれの取組や考え方を示しています。</p> <p>26ページからは、美里町社協の具体的な取組ということで事業一覧と年次計画を矢印で表しています。1-1小地域福祉活動の推進の安心生活支援事業(あんしんネットワーク)では、見守りあい活動や地域支援事業が支え合いを活性化させていく重点事業としてあげられております。詳しくは4月以降、住民の皆さまや他機関等に説明しながら推進していきたいと思っています。</p> <p>以上が第3次美里町地域福祉活動計画の説明となります。</p>
高橋	<p>皆さんからご質問はございませんでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>次の報告に移ります。</p> <p>(2)平成30年度生活支援体制整備事業 生活支援体制整備協議会の事業について報告致します。</p> <p>～会議資料1ページから4ページ(美里町生活支援体制整備事業の運営、情報紙の発行、地域福祉力UP情報交換会、多職種連携ワーキング、児童による高齢者生活支援体験事業、協議会委員等研修、宮城県生活支援コーディネーター養成研修)について報告～</p> <p>質問等はありませんか。</p>
小野会長	<p>生活支援コーディネーター研修の1つに「お宝発表会」が大崎市であり参加させていただきました。地域で活動している方がステー</p>

	<p>ジに出て紹介されました。その中で南郷の花野果市場さんも発表されて、いい刺激になりました。あのような研修にも皆で行って勉強するのもいいですね。他にも、大崎から5～6ヶ所から来ていました。</p>
高橋	<p>花野果市場の皆さんも帰りの車の中で、自分達の活動に自信を持っていたようだったと聞きました。</p>
浅野	<p>そうなんです。やはり、活動を発表して褒められたことが嬉しかったのではないかと思います。特別にやってきたことではない何気ない活動の発表が皆から共感を受けたのではないかと思います。帰りの車内の会話では、「自分たちのやってきたことは間違いない」「これでいいんだ」と自画自賛していました。</p>
小野会長	<p>そういうことが大きいですね。司会進行の酒井さんの進め方もうまかった。褒められたり、活動が認められたという感じは嬉しいですね。</p>
角田委員	<p>誰でも褒められると嬉しいですね。</p>
佐藤副会長	<p>認められることで、生きがいになりますよね。</p>
高橋	<p>今日、登壇していただく方々もそういった思いで帰っていただければいいなと思っています。</p> <p>次に 生活支援コーディネーターの活動について報告します。会議資料5ページ、6ページをご覧ください。訪問先の合計は延べ43件です。今回は訪問した場所だけ載せてしまいましたが、来年度からは訪問して何をしたのか分かるように報告していきたいと思います。委員からも地域活動のお宝情報があれば教えていただきたいと思います。報告は以上となります。ご質問等はございませんか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>次第4の協議事項に移ります。進行は小野会長にお願いします。</p>
小野会長	<p>協議事項の(1)平成31年度生活支援体制整備事業の活動方針について、事務局から説明をお願いします。</p>
高橋	<p>今年度の協議会では健康づくり、介護予防を大きなテーマとしてきました。その一方で、店舗サロン「ヨークだっ茶」や「暮らしの手伝い隊」などを通して普段の暮らしでのちょっとした困りごとが、たくさんあることがわかってきました。買い物や高い所の掃除、電球交換など普段の暮らしのちょっとした困りごとです。また、今年度2月に実施した「サロンサポーター養成講座」でも生活支援についてアンケートを実施したので事務局の田村から説明をお願いします。</p>

田村	<p>資料の10ページをご覧ください。美里町社会福祉協議会で東日本大震災前から実施しており、サロンサポーター養成講座は今年で11年目になります。生活支援体制整備事業でも地域の集い場やサロンは、地域の宝物として共通理解していますが、先駆けて社協では、サロンという場所をきっかけに暮らしの困りごとや集う方々の思いを受けとめたり、福祉について考えてくれる人を地域のリーダーになっていただけるよう養成しています。今年度は初級編ということで基本の内容として5回シリーズで行っていたところです。</p> <p>サロンサポーター養成講座を続けていくなかで、サロンの場だけを考えるのではなく、そこに集う方々のちょっとした暮らしの困りごとや来れない人がいるということが、どの地域でも聞こえてきました。そこで、サロンの場だけではなく、さらに一歩進んで「暮らし」について、養成講座に来ている方はどのように考えているのか、地域ではどのような生活支援の取り組みをしているのかについてアンケートを実施しました。</p> <p>今回の受講生の方40人、その中で31人の方にアンケートに答えていただきました。アンケートに回答していただくと結構な割合で支え合いは各地域で行われていました。一番多かったのは、ちょっとした「おすそわけ」です。「一人暮らしの男性の家に夕飯を届けています」とか、「野菜を自分の家で作っていて、野菜を持っていきます」とか、女性の受講生が多いのでそういった声が多かったです。他にもゴミ出し・雪かき・草取りや植木等、ちょっとした支え合いがさまざまな地域で行われているということを改めて認識できました。</p> <p>この体制整備事業でも暮らしの支え合いや生活支援をすすめていくなかで、社協としても重点的にやっていきたいと思っています。</p>
小野会長	31名というのは、全員、女の方ですか。
田村	男性が3名います。区長さんと民生委員の方です。
佐々木委員	サポーター養成講座、初級限定ですが、中級、上級の講座は過去に実施してきたのですか。
田村	実施してきました。
佐々木委員	リーダーではなくて参加する人たちを養成する講座としてとらえてよろしいのですか。
田村	サロンをサポートする人というイメージです。
佐々木委員	リーダーシップをとって開催するという人ではないのですね。

田村	<p>開催する場合がありますし、ボランティアに関わる方が、このサロンは大事な場で、地域の方々のニーズをキャッチできる場でもあるという視点を持ってサロンを運営することができたらいいなという思いで開催しています。</p>
浅野	<p>以前、私が企画してスタートした時、その当時は、集うことが目的で、集って「もてなす」「指導する」というところにありました。サロンを主体的に運営する人たちがいてくれたらいいなということがスタートでした。サポーターと民生委員さん、区長さんが一緒になって今度のサロンをどうするかという話になった時に、例えばこういう目的があるから保健師さんをお呼びとか、こういう目的で体操しようとか、そのように考えてもらうための主体性をもってもらいたいと思い企画しました。</p> <p>当時は、目的は何もなく、年数回実施しなければいけないという理由から集まっていたことが圧倒的に多かった。それがサロンサポーター養成講座と地域福祉笑学校の出前講座の企画のところから社協が関わって十何年やってきました。サロンサポーター養成講座は、初級編と上級編の2つのパターンを実施してきましたが、延べ人数にすると二百何人、年度によって初級に戻ってみたりステップアップしたりして積み重ねてきました。一方で、なかなか養成講座は終わってみても役員じゃないとなかなか輪に入れないう等といった課題があります。</p>
小野会長	<p>役員をサポーターの方が担ってくれるといいのだけれども、いろいろ人間関係があったりするのでリーダーがうまく調整していかないと難しいのかなと思います。</p>
永沼	<p>社協が地域とサロンサポーターのつなぎを担うこともありました。小野会長さんが言われるように、地域にサロンサポーターが入るのに難しい時などは、社協で養成した方ですという紹介やつなぎをすることで入りやすくなるのかなと思っています。でも、スムーズに行く場合とそうでない場合がありますね。</p>
角田委員	<p>今年度のサロンサポーター養成講座に、私の地域からも何名か参加しました。行政区でやっているお茶飲み会は、食事等の打ち合わせからボランティアさんも入ってくれるけど、「企画」となると、私と区長さんとでやることが多いです。今回、サロンサポーター養成講座を受けた方が何人かいるので、企画から入っていただければ、私達もすごく心強いなと思います。</p>
小野会長	<p>どうでしょうか志水先生。社協ではサロンサポーターを養成して</p>

	<p>いますが、サロンサポーターの関わり方やあり方、また、行政区とうまくつながる方法がありますか。</p>
志水氏	<p>行政区もそれぞれの形があります。それを壊してギスギスするのが一番怖いです。今まで関わっていなかったのを関わるというのは一歩進んだことなので実際やるかやらないかは時間的経過もあります。養成講座を受けた方がいるということを知っているだけでも、一歩進んでいると思います。でも、まずはギスギスしない様にするのが一番重要だと思います。あとはリーダーさんの把握の仕方が重要。そして、社協がこういう方がいるよということを紹介したり、このようなやり方をしていますよとか、具体的情報を提供することで活用の仕方を区長さんがわかってくれば、また接点が増えていくのかなと思います。画一的にやるのは上手くないと思います。</p>
小野会長	<p>そうですね。</p>
永沼	<p>ここの部分で皆さんに伝えたかったのは、「暮らしを支えたい」、「手伝いたい」ということが、小牛田地区から南郷地区までそれぞれゴミ出しやおすそわけなどがたくさんあるということですよ。そして、それを意識していくと、ゴミ出しというのはどこの地区にもあつたりします。地区やご近所同士でもやっているというのが、今回のアンケートを通して見えてきました。</p>
浅野	<p>介護保険事業所の方でも、ヘルパーさんのゴミ出し等が課題であることを以前、佐藤副会長もお話していました。サロンサポーターも支援者側という立ち位置ですが、一方で、当事者の声も聞いていけたらなと思います。それから、報告にもありました「児童のための暮らし手伝い隊」では、子ども達が夏休みや冬休み期間に、高齢者宅を訪問し自分ができることを手伝うというものを民生委員さん等にもご協力をいただいて実施しました。私たちの目的は、子どもの活動をとおしてパパ、ママ世代へも支え合いの地域づくりについて啓発することでした。保護者からも好反応でした。30代・40代の世代に対しても、生活支援体制整備事業としてはアプローチしていきたいと思っています。各世代へ生活支援について考えていただきたいと思っています。今すぐ何かしてもらわなくていいから、考えていただくチャンスをつくってあげればと思って「手伝い隊」を実施しました。</p> <p>あとはヨークベニマルの店長との話のなかで「毎日同じものを買っていく高齢者がいる」「万引きが増えている」という話も出てきたので、ヨークベニマル内のイトインコーナーを借りて7月から</p>

	<p>月1回、サロンを開催しています。民生委員さんや小野会長さんも来ていただいて、通りすがりの皆さんの声を聞き、すぐに相談につながったものもあれば、見守るといったものもあったりし、店との連携が始まったという感じです。美里町の状況をみんなで見て共有していくことが大事だと思いました。</p>
佐藤副会長	<p>私の事業所のケアマネが偶然そのサロンを開催している場面を見まして、やっぱり私たちも相談を受けるという機会を、もう少し設けた方が良くないかと具体的な話になりました。今までは、サービスの依頼をいただくのを待っていましたが、平成31年度は各地域に農協の支店がありますので、そういうところに出向いて地域の皆さんの声を聞く機会を持ちたいと思っております。</p> <p>体制整備協議会の委員さんや社協さんの活動から刺激を受け、平成31年は新たなチャレンジをするということになっております。具体的に、いつ、どの支店で実施するというのは、まだ決まっていませんが、地域の方と多く関われる場をもちたいと思っております。</p>
浅野	<p>事務所の相談室で待っているより、地域に出向き、地域の方の生活の一部のなかで困りごとや悩みを聞くことができます。9ヶ月程実施し、お客さんとしてサロンに来ていた方が「ボランティアでお茶入れするから」と協力してくださる方も現在います。</p>
小野会長	<p>これからまた継続して実施して、いろんな経験や成果、悩みなども共有できればいいと思います。</p>
佐藤副会長	<p>そうですね。JAでは、今年度に鹿島台で「えがおカフェ」という名称で試験的に実施しました。ただ、2ヶ月に1回の実施というところで、もう少し各地域で実施して広がりを持ちたいと検討しておりました。</p>
小野会長	<p>がんばってください。その他活動について、ございませんか。</p>
高橋	<p>これからも、地域の様々な情報や困りごとをキャッチしていきたいと思っております。そして、8ページに平成31年度の事業(案)というものをまとめさせていただきました。上の欄には協議会の開催等の目的や内容が記載してあります。その下は、広報啓発ということで、今年度も実施してまいりました支え合い情報紙「おげんきですか。」の発行や「くらしの手伝い隊」、「啓発事業」等が記載してあります。こちらは来年度も継続して実施していければと思っております。下の欄は検討ということで「介護予防・生活支援に資する担い手の養成」ということで、「サロンサポーター養成講座」から、</p>

	<p>より暮らしに一步近づいたカタチで、「くらしのサポーター養成講座」という名前に変えて、人材を養成していきたいと思っています。また、地域住民向け支え合い研修会、視察研修なども案として記載しております。そして、地域資源リスト(仮)の作成のところでは、各地域の課題やニーズを把握することと、地域の情報や特徴などを地域のお宝として見える化していきたいと思っています。できれば来年度、こういった形式でこういったものを載せるかというところを協議会で話し合い、平成 32 年度には見える化ということで冊子のようなものをまとめられたらと思っていますがいかがでしょうか。</p>
小野会長	<p>平成 31 年度事業計画の案ですけれども、何か質問はありますか。地域資源リスト(仮)を作成するにあたって、行政区もいっぱいあるから地域性がでるのではないかな。でも、それは仕方ないのかな。</p>
相原	<p>介護保険の運営委員会の委員さんからも「一人暮らしの人達の細かい支援について考えなければならないよね」という意見が出ていました。私たちは行政なので、どうしても制度の中でできること・できないことを考えてしまいます。個別の相談で、それに対応できないと「対応できないな。ちょっと様子を見よう」となるんですが、そうではなくて「制度では対応できないけど、地域の で対応できるものがあるね。」というのがわかれば、その方への対応の幅が広がると思うんです。</p> <p>地域の差はあるかもしれませんが、何もないところは私達や地域みんなで話し合っ、「こんなのがあったらいいよね」と考えていく機会をもつことから始まると思います。地域の人たちの声とか、実際の現場の声を聞いているつもりだけれど、それをもっと具体的に見える形にしていけたらいいなと思います。</p>
小野会長	<p>難しいし、大変なことだと思います。でも、どこに何があるかわかればいいですね。相談する側も受ける側も筋道があると安心すると思います。</p>
相原	<p>頭の中にあるもの見えるようにして、ここの地区は何で対応できるかを、みんなで一緒に考えていけたらいいのかなと思います。</p>
小野会長	<p>それでは、他に何かありませんか。</p>
永沼	<p>この平成 31 年度事業案の協議会と広報啓発のところは、今年度も実施してきましたし、ある程度決まっています。そして、検討ということで、介護予防・生活支援に資する担い手の養成から地域資</p>

	<p>源リスト（仮）の作成までということで、このような方針を進めていってよろしいですか、というところを固められればと思います。この生活支援体制整備事業、委託を受けてから1年目はサロンや集まりの場をテーマにさせていただきました。2年目の今年度については、介護予防・健康づくりをテーマにしてきました。今回は来年度のテーマについて方針だけでも決めていただいて、来年度の協議会1回目のところで、具体的に皆さんと協議できればいいのかなと思っています。</p> <p>来年度、社協でも「くらしのサポーター養成講座」ということで、「くらし」の方に視点をもっていこうかなと思っています。報告でもさせていただいた、活動計画の中でも小地域福祉や生活支援というものを重点的に検討していきたいと思っています。生活支援体制整備事業でも、来年度、くらしの支え合いや生活支援に重点を置いて協議をしたり、コーディネーターが地域へ出向いた際に、そういった視点で訪問できればいいのかなと思います。ですので、来年度「くらし」や「生活支援」の方針でよろしいか確認できればいいかなと思っています。</p>
小野会長	<p>永沼さんが言ったように「くらし」や「生活支援」を具体的に来年度考えてみましょうということですが、いかがでしょう。今年は介護予防とか、健康づくりの方を重点的にやっているけれども視点を変えて、大きい問題だけれど「くらし全体」の問題を考えるとということですね。</p>
浅野	<p>生活支援体制整備事業そのものが漠然としていて、なんだかわからない。だから、サロンなどの楽しいことを地域のお宝として意味づけしながらスタートしてきましたが、いよいよ本題に来年度はさしかかるとということですね。</p>
小野会長	<p>「くらし」というのは大きな問題ですよ。</p>
永沼	<p>県内の状況を及川さんに、ご意見いただきたいと思います。</p>
及川氏	<p>こうやって年度毎に具体的な目標を立てている協議体というのは、県内でもないです。やはり協議体の運営は、みなさん困っていて、悩んでいらっしゃるのが現状です。先生方がよく話されているのは、協議を繰り返すことによって、委員さんが話に慣れてきたり、事業の意味が分かったりしてくるので、繰り返しの大切さをよくお話しされています。ですので、美里町のようにちゃんとテーマやキーワード、目標をもっているのは素晴らしいと思います。このように、協議体を運営しているのは、逆に県内でも参考にさせていただ</p>

	<p>きたい事例です。それだけすごいと思っていただいていたと思います。</p> <p>ひとつお知らせですけれども、第4回全国セミナーについてです。平成32年2月14日に決まりました。寒い時期ではありますが、内容については志水先生などとこれから企画するところです。</p>
小野会長	<p>ありがとうございました。それでは、続いて(2)平成30年度美里町生活支援体制整備協議会啓発事業「地域の介護予防活動は地域づくりへの第一歩」の進め方についてです。事務局よりお願いします。</p>
高橋	<p>協議というよりも、打ち合わせになりますが、11ページをお開きください。こちらが今日のタイムスケジュールとなっております。今日は約50名の参加予定です。昨年度よりは少なくなっています。時期的なことも影響しているのかなと思っています。</p> <p>～タイムスケジュールの確認～</p> <p>閉会しましたら大会議室に移動していただいて、振り返りをさせていただきます。町外からは、鳴子まちづくり協議会から高橋さん、登米市社協から4名の生活支援コーディネーターさん、宮城野区の民生委員児童委員協議会から会長さん他3名の方がいらっしゃる予定となっております。よろしくお願い致します。</p>
小野会長	<p>みなさんよろしいでしょうか。これで、第4回生活支援体制整備協議会は閉会します。みなさん、お疲れ様でした。</p>

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委員 _____

委員 _____